

園長先生の子育てひろば

令和7年10月

発達の種類

園長 堀田 あけみ

幼稚園では運動会が近づいています。ようやく戸外で気持ちよく体を動かせる気候（「季節」と言わないのは、季節と気候が合っていないような気がしているからです）になってきました。運動会が好きな子もいれば、嫌いというより苦手なタイプの子もいますね。次男には発達障害がいましたが、それでも3年間、苦手と思う様子もなく、みんなと一緒に楽しめたのは、先生方のご尽力のおかげだと思います。

私は大学では日本語の翻訳についての授業も持っています。言葉の意味を違えず、別の言語に移行させるのは、それほど単純な作業ではありません。2行上の「障害」も身体の機能そのものが完全な状態にない impairment という単語が使われ、明らかに何かができない場合には disability が使われます。では発達障害はどうかというと、developmental disorder と言います。可能の ability に否定の dis をつける場合と、比較すると、わかりやすくなりますね。これらが日本語ではすべて「障害」とされてしまうので、厄介なのです。

発達障害に対して、order が違う、もしくは間違っている、という意味の語を当てるのは当事者としては大いに納得できることだと思います。順序が違っていたり、こちらの要求を大真面目に勘違いしたりしているのです。私が次男の障害に気付いたのは、実は大学で言語発達の授業をしているときです。その日の授業は、発達がゆっくりなのは、大きく平均値を外れない限り、その子の個性と受け止めていて良いけれども、順番が違うときには、注意してほしい、という内容でした。当時、次男は2歳。始語は早く、生後1年前後に「あーぱん（アンパンマン）」「うさたん」とはっきり言いました。それ以降、ひらがなやアルファベットの絵本を好んで読んで、積み木で単語を作っていたりしたので、夫は彼を天才だと思っていました。でも、授業中に思いました。彼は、読めているし書くこともできる。でも、コミュニケーションとしての言葉を持っているだろうか。始語は早かったけれど、ラベリングが主で話しかけてこない。言葉とは、さまざまな機能を持ちますが、一番の根源は誰かと交流することです。一番最初に会話が発達するのが筋ですが、一人で字を読むことが先行している。そこから受診に至りました。

子どもの発達を見守るには、焦らず、でも細やかな気遣いで、が大切だと思います。考え過ぎ、と言われたら、それくらいでちょうどいいと思ひましょう。私は言葉の発達がとても遅かったので、親は心配する前に、それでも生きていける人間に育てようと幼少時から家事一式を叩き込みました。昭和の時代、料理と裁縫ができたなら女はなんとかなると思われていたのです。学者になるなら、あれはいらんかった、と後に言われましたが、料理と裁縫（特に料理）が苦にならないのは、生きていく上での大きなプレゼントになりました。大人になって振り返ったときに、これはプレゼントだったんだ、と思えるような何かを私も渡せていたらいいな、と思っています。